

年頭のご挨拶

駐フィリピン日本国大使

羽田 浩二



明けましておめでとうございます。

マニラ日本人会の皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年の日比関係を振り返ってみますと、1月に在ダバオ日本国総領事館が領事事務所から格上げされたことに象徴されるように、両国が「戦略的パートナーシップ」に基づく協力関係を強化させ、まさに「黄金時代」とも称される両国の特別な関係が定着した1年間であったと思っております。

このような現在の良好な二国間関係は、マニラ日本人会の皆様をはじめ多くの方々の努力によるものであり、お礼申し上げます。

昨年は要人往来も活発であり、1月に伊達参議院議長、2月に河野外務大臣（当時）がフィリピンを訪問されました。

フィリピンからは2月にドミンゲス財務大臣（第7回日比経済協力インフラ合同委員会）、3月にロペス貿易産業大臣、ツガデ運輸大臣、プヤット観光大臣（第37回日比経済合同委員会）、5月にドゥテルテ大統領（「日経アジアの未来」シンポジウム）、10月にドゥテルテ大統領、サラ・ダバオ市長（即位の礼）がそれぞれ訪日されました。

また、8月には日比外相会談、11月には日比首脳会談が、いずれもタイにおけるASEAN関連会合の機会に行われました。ドゥテ

ルテ大統領からは、インフラ協力、ミンダナオ支援等への協力に対する謝意の他、今後名古屋にフィリピン総領事館を開設予定であることの表明がありました。

防衛協力分野では、昨年3月、陸上自衛隊UH-1Hヘリコプターのスペアパーツのフィリピン空軍への移転を行いました。この移転は、日比関係をより強固にするのみならず、フィリピンの人道支援・災害救援、輸送及び海洋状況把握に関する能力向上、地域の平和と安定に資するものです。また昨年6月には、海上自衛隊護衛艦「いずも」がスービック港に寄港し、ロレンザーナ国防大臣及びドミンゲス財務大臣が乗艦するなど、日本とフィリピンとの防衛協力・交流は大きく進展しています。

ミンダナオ和平では、昨年1月にバンサモロ基本法にかかる住民投票が行われ、2月にバンサモロ暫定自治政府(BTA)が発足し、6月にバンサモロ議会で2022年の自治政府発足に向けた移行計画が承認されるなど、本格的な行政移管が始まりました。我が国はこれまでリーディング・ドナーとして培ってきた経験を生かして、ミンダナオ島の発展の土台となる平和と安定を築くべく、バンサモロ暫定自治政府の能力強化、モロ・イスラム回教戦線(MILF)兵士の退役・武装解除を含む正常化支援、社会基盤強化のためのインフラ支援等を通じて、引き続き和平プロセスの進展を支援しています。こうした実績が認められ、昨年9月にフィリピン政府

から私に和平プロセス・チャンピオン賞が授与されました。

経済協力分野においても、昨年は日本とフィリピンとの関係は目覚ましく進展しました。2017年10月に発出された5年間の二国間協力に関する日フィリピン共同声明の下、マニラ首都圏地下鉄事業、南北通勤鉄道事業、MRT-3号線の改修、巡視船等の供与、メトロセブ水道区汚泥管理計画、治安・テロ対策機材の供与、ミンダナオにおける和平の確立のための農業訓練計画、同水道設備管理能力向上計画、人材育成奨学計画等、日フィリピン経済協力は着実に進展しました。引き続き、我が国はドゥテルテ政権が推し進める「ビルド、ビルド、ビルド」計画を強力に支援します。

経済分野では、3月、新しい在留資格「特定技能」にかかる政府間取り決め(MOC)が署名され、4月以降、日本語基礎テスト、各業務における技能試験が順次フィリピンや日本で実施されています。

「黄金時代」と称される良好な日比関係には、人と人、心と心の交流を通じた相互の信頼醸成が大きく寄与しています。

フィリピン人の日本への渡航者数が2018年は50万人を超え、過去6年で6倍以上増加しましたが、2019年も更に増加したものと見込まれます。一方、日本人のフィリピンへの渡航者数も年々増加し、2018年は63万人に達しました。英語留学者も多数含ま

れます。

日本とフィリピンの間の直行便も増えています（マニラ・札幌便，2018年12月，フィリピン航空；マニラ・関空便，2019年7月，フィリピン・エアアジア；クラーク・成田便，2019年8月，セブ・パシフィック）。

昨年11月にマニラで初めて開催され約18,000人が来場したJAPAN FIESTA 2019の成功は，日本の魅力をフィリピンの人たちに伝える出来事となったことでしょう。マニラ日本人会の皆様のご協力に感謝いたします。

昨今は，日本とフィリピンの両国にゆかりのあるアスリートの活躍も目覚ましいものがあります。

大相撲では，日本人とフィリピン人を両親に持つ御嶽海関や高安関の活躍，2018年のアジア競技大会では，ゴルフの笹生選手，空手の月井選手，柔道の渡辺選手といった選手たちのメダル獲得が話題となりました。そしてフィリピン体操界のホープとして期待の集まるカルロス・ユーロ選手も日本人コーチの指導の下，日本でトレーニングを続けています。両国の架け橋である若いアスリートたちが，今年の2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に出場することを楽しみにしております。

人と人との交流の拡大に向けて，日本政府では，国費留学事業，対日理解促進プログラム（JENESYS），JETプログラム，東南アジア青年の船などの青少年交流や様々な文化事業を続けて参りました。今後も，多くのフィリピンの方々に日本を理解し，好きにな

ってもらえるよう取り組みを続けていきたいと思っております。

昨年 11 月、ミンダナオ島東部の 9 都市・島（シアルガオ島、ブトゥアン市、ハッサン市、ビジャヌエバ市、タゴロアン市、タグム市、サマル市、ディゴス市、マティ市）の危険情報を一部引き下げました。投資の増大や観光の発展にもつながることを期待しています。

同時にフィリピンを含め、世界各地で多発するテロ事件などに目を向ければ、安全に十分な注意を払う必要があることも事実です。また、地震や台風被害も発生しています。日本国大使館としては、これからも在留邦人の皆様の安心安全を確保すべく、マニラ日本人会とも緊密に連携し、安全情報をきめ細かくかつ迅速に提供させていただきます。

最後に、マニラ日本人会の益々のご発展、及び会員の皆様の本年のご健勝と一層のご発展を心からお祈りいたします。

(了)